

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今月は過去にもあまり経験がないくらい、販売が好調である。来店すれば成約につながる確率が非常に高い。国の補助金制度がプラス要因として需要を押し上げていると思われる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は、前年3月の東日本大震災や夏の放射能汚染問題の影響による落ち込みからようやく立ち直り、前々年同月の水準を上回ってきている。平日、土日祝いずれも来客数は回復している。客単価も前々年同月の水準を回復している。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子を見ると、景気は良くなっている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・東日本大震災から1年が経ち、自粛ムードから明るさが戻ってきて、客の表情、購買力共に回復の兆しが見える。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上が伸びている。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	お客様の様子	・今年は花粉症の当たり年ではないと言われていたが、調剤も一般の医薬品の販売も好調である。客の動きも良い。3か月前のインフルエンザは大したことがなかった。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・例年3月は需要が最も多い時期であるが、東日本大震災の影響がなくなり、販売量も少しずつではあるが伸びてきている。卒業、退職等のギフトもまずまずである。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・まだ月によって波はあるが、悪いながらも少しずつ良い方向に向かっている。景気の底打ち感がある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・土日は家族連れのお客が多い。入学・卒業シーズンで、子供向けに高額商品やまとめ買いをする客もおり、売上は良い。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・物産展は好調に推移しているが、気温が低い状態が続いており、相変わらず春物の衣料品の動きが悪い。ただし、宝飾品の展示会については来客数、販売量共に好調である。
		百貨店（営業企画・販売促進）	お客様の様子	・春の到来とともに、購買に至らないまでもショッピングを楽しむ様子が見受けられる。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・婦人服の春物の動きが良い。ただし、洋品・雑貨は動いていない。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・前年の12月と比較して、売上は増加している。他方、商品単価の低下傾向は継続しており、販売数でカバーする構造になっている。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・前年は東日本大震災に伴う影響があったことを除いても、今までになかった物の動きがある。特に実需であるセーターやカットソーといった数量を必要とする商品が、ここ数年にないほど大幅に伸びている。従来は低価格品が購入されていたが、現在は品質を伴った高単価品が好調であり、新しい物への関心がうかがえる。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・引き続き、宝飾、特選輸入雑貨などの高額品の動きが顕著である。物産展も好調に推移している。ただし、気温の低下傾向もあり、春物商材の動きが一部で鈍いが、全体を総じて見るとやや良くなっている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価が3%上昇し、来客数は2.8%増加している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活に関する需要が底堅い。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・減税や補助金の関係で少し良い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・減税、補助金等があり、3月の販売台数、登録台数共に、前年をオーバーしており、販売会社としては大変に喜ばしい現状である。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・買い控えていた分が徐々に購入に動いている。
住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・民間工事の設備投資が増加し、消費税増税前の駆け込み需要でリフォームは相変わらず堅調である。		
一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・少しではあるが客のニーズが上向いている。		

	スナック（経営者）	単価の動き	・送別会等のグループ客が思ったより増加し、売上は1割ほど増加している。しかし、今まで以上に経費が使用せず、個人での飲食となるため単価が低下しているが、今後はこのような傾向にあるため仕方がない。
	都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・客の利用が増えてきている。企業の業績が良くなってきている。
	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・1月以降売上が増加しており、3月は前々年並みの売上である。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・春休み、期末を利用した旅行需要が増加している。最近、空港に向かう機会が多いが、空港の出国ゲートはここ数か月からでは考えられないほどの渡航者で熱気に満ちている。余暇を旅行に充てている人が多い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・各企業が異動の時期で送迎会の客が前年同月と比べて増加している。遠方への客も増加している。昼間の客は低迷したままである。
	タクシー運転手	来客数の動き	・景気がやや良くなったというものの、歓送迎会でも2次会をやらない、夜遅くまで人がいないということで昔と比べると寂しい。
	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・年度末で、移転と同時に光回線への切替えや映像系サービスの申込が増加している。
	美顔美容室（経営者）	販売量の動き	・キャンペーンにより予想以上に好結果となり、販売量がかなり増加している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業、入学シーズンでイベントも多く、その機会で来店する客が多い。
	美容室（経営者）	それ以外	・年明けは寒かったせいで来客数が悪かったので、1月、2月に比べると今月は客が増加している。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・期末ということもあり、販売数は前月よりも伸びている。株価も少し上昇しているなどのニュースも聞いている。若干景気が上向いてきていると客も感じているのか、3月は動きが良くなっている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は週末の人出が多くなり、それに伴い500円以下の商品が良く売れている。ただし、1000円以上の商品になると、売行きは鈍る。
	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・食品業界は景況感の反応が鈍い。株式市場がやや好転しているが、その影響を受けず大河の小船のごとく緩やかに運行している。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・個人経営の飲食店の閉店と開店の両面が見られる。
	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・例年の動きとして3月下旬は年度末や学校の休みなどの影響で動きは少なくなるが、前年は東日本大震災後の買いだめがあったものの、今年はその分を差し引いた動きとなっている。
	一般小売店〔食品〕（経営者）	お客様の様子	・小寒い日が続いたが、春休みになり来客数が増加し、売上も前年同月比を上回る勢いである。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温が低いせいもあるが、春物の動きが鈍く購入を控えている様子が見える。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・売上の前年比は、100%を超えているが、前年は東日本大震災による影響が大きかったので、実質的には景気回復とはいえない。
	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・目的買いがほとんどで、余計なものは買わないという傾向がある。
	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・ここしばらくイベントには集客があり、数字も伸びて景気が上向きになりそうな様子が見えるものの、イベント終了後は来客数、売上共に大幅減であり、トータルで見ると良くなっていないということの繰り返しで変わらない。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・原油の値上げで油を使用している各企業は原材料等が値上がりし、加工品の値上げが進んでいる。デフレは脱却しつつあるが、中小企業で働く各家庭全体の所得が上がらないため、消費に回す金額が限られ買物も安い商品が中心となっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は低下している。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・店舗売上高は前年同月比100%を達成しているが、来客数は2%ほど減少し続けている。1品単価の上昇と買上点数の上昇のためであるが、来客数が減り続けているのは、あまり良くない傾向である。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は前年同月比100%前後の推移であるが、前年は東日本大震災特需があり今後は低下が予想される。

スーパー（営業担当）	単価の動き	・ 1品単価、買上単価はまだ上昇してこないと言っている。しかしながら株価の上昇もあり、マインドとしては少し上昇傾向にある。原油の値上がり、消費税論議もあり、景気も足踏み状況である。
スーパー（販売促進担当）	お客様の様子	・ 前年は東日本大震災の特需があり、今月は厳しい。
スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・ 前年は東日本大震災特需で売上が増えた分、ほぼ同じ金額だけ減少している。高付加価値型店舗よりも価格競争が激しい生鮮系店舗の競争が激化して売上を落としている。
コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・ 気温が上がらず寒い日が続き、来店に少し影響が出ている。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・ 売上は前月同様に前年をクリアしている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 前月と比較して、来客数の前年同月比は2%改善している。新商品とオリジナル商品のPR効果で来客数が増えている。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・ 来客数、客単価共に上昇していない。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・ 来客数の減少が止まっていない。先行きも良くない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ 暖かくなり、来客数は増加している。買い控える様子もない。
衣料品専門店（経理担当）	販売量の動き	・ 特にない。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・ 客の動きが軽くなってきている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 年明けからの景気の良い状態を維持している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ メーカーの車両生産が順調に回復し、更に不足している車両の増産効果により、販売台数は順調に回復している。しかし、年度末という状況を考えるならば、商談・受注件数の伸びをあまり感じる事ができず、客の検討車両がハイブリッド車・低燃費車両により集中してきている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 販売量は前年同月比160%を記録し、久々の手ごたえがある。これは現行グリーン税制が終わるのを見越しての駆け込み需要があったからである。補助金も追い風になっている。ただし、サービス工場への在庫量は依然として厳しく、収益的には若干目標に届かない状況になっている。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・ 決算期にもかかわらず、あまり台数が増加しない。
その他専門店[雑貨]（店員）	来客数の動き	・ セールの日とそうでない日の来客数をはっきりしている。
一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・ 今月の週末は雨と寒さのため全く客が外出しないという悪循環である。
その他飲食[仕出し]（経営者）	販売量の動き	・ 増税論議で、消費者心理がシビアになっている感は否めない。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・ 3か月前の時点でも東日本大震災の影響はほとんどなく、3月に入っても予約のスピードはそれほど変わらない。
観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・ 今月は前年実績をクリアしていくとは思いますが、まだまだ本来の水準に達したとは決していえないレベルにある。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・ 東日本大震災前の状況まで回復するには、まだ時間が掛かりそうである。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・ 客の動向としては、ゴールデンウィークの旅行や夏休みの旅行などの問い合わせも前年よりは多くあり、若干上向いている。また、円高傾向も抑制されていて、環境も整ってきている。しかし、唯一の懸念材料が原油高であり、燃油サーチャージ等が高騰する可能性がある。
旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・ 景気の良い層と悪い層に大幅な開きがある。景気の先行き不安の材料が多すぎるイメージがある。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ 福島第一原子力発電所事故の影響から回復しつつあるが、円高等の影響が県内企業の海外進出を促進しているため、国内の動きについては販売量から見ると成長しているとはいいたい。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・3月は春休み、卒業シーズンで学生の旅行が増加するが、今年は気温が低く一般の行楽客が減少している。
	タクシー運転手 タクシー運転手 お客様の様子	来客数の動き	・3か月前とは変わらないが、前年と比べ多少良い。 ・前年は東日本大震災後の自粛ムードで来客数が減少したが、今年は歓送迎会も多く、夜の集まりも多く、週末の木金土辺りは売上が増加している。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・環境が悪いことは変わらないが、やや下げ止まりした感がある。
	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・電話での照会を含めて来客数にも変化がなく、新たな商品に対する問い合わせも少ない。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・次世代ネットワークの提供エリアが拡大しつつあるが、他社への変更もあり、現状維持である。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・冬季の温泉施設への来客数が今一つである。景気感はまだあまり上がっていない様子である。
	ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・今月は寒い日が多いにもかかわらず、来場者数は前年並みで、売上は少し増加している。入場者数は今のところ予算目標に届いていないが、3か月前と比べるとほんの少し良くなってきている。
	その他サービス [介護サービス]（職員）	販売量の動き	・暖かくなってきて移動用具の貸し出しが増加しつつあるが、解約件数も1、2月と変わらず多い傾向が続いている。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・消費税増税を懸念し、早めに購入している様子である。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・特に変化はない。横ばい状態である。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・売上が伸びないにもかかわらず、ガソリンを始めとする費用等が値上げされ、利益がひっ迫されており、非常に苦しい状況となっている。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は増加しているが、客単価がより一層低くなっており販売量につながっていない。
	一般小売店 [贈答品]（経営者）	お客様の様子	・3月は余剰の資金が出る会社はなく、売上は増加していない。4月は卒入学等でお祝いが増える時期であるが、相対的に結婚する人や子供が減少しているのので、人口が減少することで冠婚葬祭の量がすべてマイナス傾向に進んでいる。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・小売店や八百屋などの売上が悪いが、野菜の高騰などにより更に売上が減少し廃業なども出ている。
	スーパー（店員）	販売量の動き	・前年は東日本大震災の影響で売上があったが、今年に入り来客数、単価共に落ち込んでいる。
	スーパー（店員）	単価の動き	・野菜の高値水準が依然として続いたままである。3か月前と比べて、果物、野菜の全体の値段が2割程度上昇して推移している。
	スーパー（店員）	単価の動き	・客単価が非常に低く、必要な物しか買わない動きである。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・低温傾向で飲料水の売上が減少し、チルド飲料などでロスが出ている。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・単価だけではなく、来客数や販売量などの状況も悪く、景気の低迷につながっている。
	その他専門店 [雑貨]（店員）	単価の動き	・来客数の減少に加えて、デフレスパイラルが加速している。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・寒い日が続く来客数に影響が出ている。
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・宿泊単価が相変わらずデフレのままである。
	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・出張自体は増加しているように感じるが、宿泊予約の期間が非常に短く、当日の予約が多い。3月は、宿泊、宴会共に前年比マイナスである。
	理美容室（経営者）	来客数の動き	・暖かくなり来客数も増加するはずであるが、あまり変わらない。
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・今の景気が不安なのではないか。
	悪くなっている	その他住宅 [住宅管理]（従業員）	お客様の様子
商店街（代表者）		お客様の様子	・消費税増税でマインドが下がっている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこの販売が前年を下回っており、一般商品も悪く、来客数も減少している。

		その他専門店 〔貴金属〕(店 長)	お客様の様子	・高額商品の動きは止まったままで、余裕のなさがかえりかえる。不透明な社会情勢が変わらない限り回復は見込めない。
		テーマパーク (職員)	お客様の様子	・前年に比べて来場者数が少ない。
		パチンコ店(経 営者)	販売量の動き	・来客数の動き、単価の動き共に悪くなっている。
		理容室(経 営者)	お客様の様子	・景気の悪い話は何もなく、客の回転が悪く、金を使わない。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・取引先の業者から、工事が減ってしまって社員に辞めてもらわなければならないくらいになってきたと聞いている。
企業 動向 関連	良くなっている	金融業(法人営 業担当)	取引先の様子	・自動車部品関連メーカーでは、円高の修正、タイの洪水の影響からの復興、エコカー補助金などのプラス要因から、順調に生産が増加している。
	やや良くなっている	食料品製造業 (経営企画担 当)	受注量や販売量 の動き	・季節的な要因かもしれないが、休日の人出、外食店舗のにぎわいなどが徐々に増えてきている。先行きの不安はあるものの、節約疲れの反動のようなものが表れて、消費が膨らむ傾向にあるのではないかと。
		紙加工品〔段 ボール〕製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・主要顧客である自動車産業向けの段ボールなど、梱包材の販売量が伸びてきている。
		パルプ・紙・紙 加工品製造業 (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量共に3～5%増加しており、やや良くなっている。
		化学工業(総務 担当)	それ以外	・半導体関連は振るわないが、東日本大震災の復興需要がやや動き出している。
		化学工業(人事 担当)	それ以外	・一部の業界の業績悪化報道が出されてはいるが、少し円安に振れ、また欧州の信用不安の危機感が少し薄らいだこともあり、景気が若干良くなってきている雰囲気がある。また、企業の新卒採用数が上向きであることもその背景にある。
		金属製品製造業 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・販売数量が増加傾向である。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・一時的な円安傾向で自粛傾向が緩んできている。
		電気機械器具製 造業(営業担 当)	それ以外	・日本銀行の金融緩和などで円安の方向にあることと株価の回復などが好材料になっている。
		建設業(経 営者)	受注量や販売量 の動き	・不動産開発業では、マンション、戸建共に順調な売行きである。リーマンショック後と比べて随分と景気回復を実感している。
		輸送業(エリア 担当)	受注量や販売量 の動き	・ここ数か月、前年と比較して輸出と輸入共に増加している。特に輸入の増加は大きい。
		金融業(企画担 当)	取引先の様子	・わずかながらも株高、円安の方向にあり、個人の客の投資意欲が戻ってきている。欧州問題も落ち着き感が出てきているため、景気への回復期待という心理的要因かもしれないが良くなっている。
		会計事務所(職 員)	取引先の様子	・建設関係業者にとっては3月が年度末とあって受注が増えていると聞いている。例年と比較しても今年は東日本大震災の影響により補修、補強を兼ねた工事が多い様子である。また、消費税増税前の駆け込み受注も見られるようである。
		その他サービス 業〔ソフト開 発〕(社員)	受注価格や販売 価格の動き	・新規案件が好調で、取引先からの調達が活気付いてきている。
		変わらない	化学工業(企画 担当)	受注量や販売量 の動き
窯業・土石製品 製造業(社員)	受注量や販売量 の動き		・徐々に回復していた受注量が、3月に入ったとたんに急に少なくなっている。前月までの受注品の生産、出荷で、売上は前年並みを確保しているが、先行きは厳しい。	
金属製品製造業 (従業員)	取引先の様子		・物件が減って暇になるという声が聞かれるが、短納期のため忙しさは減っていない。	
一般機械器具製 造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き		・米国の自動車産業の業績改善をうけて、北米、南米において設備投資に対する客の意欲は向上しており、引き合い件数は毎月増え続けている。しかし、円高もあり実際の受注金額はここ数か月変化はない。	

	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・米国の景気に光が見え始め、受注の先行きが好転してきている。円高が一服した感があることも好材料である。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・車載電子業界では、サプライチェーンの混乱から脱却しており、回復中である。情報通信、FA業界では、新興国がピークを過ぎ、受注は徐々に減少中である。足元の前年同月比は回復傾向であるが判断しにくい。
	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・受注量が平行線をたどっている。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・前年は東日本大震災後であったこともあり、比較すると発送、到着共に増えている。しかし、前年は救援物資の配送が多く、単価が高かったため、前年比で見ると単価は下落している。
	輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上の3か月前比は前年同月が0.9%、今月は1.0%とその差はわずか0.1%となり、とても落ち着いてきている。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて荷物量はほぼ同じもしくは減少気味である。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の状況から変化は感じられない。底堅く堅調という感じである。
	不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・客からの新規事務所の問い合わせが増加しているが、坪単価が安い物件への移動であり、経費の圧縮は更に進んでいる。
	企業広告制作業（経営者）	それ以外	・景気は低迷したままであるが、女性向けの商品は元気である。その分を相殺すると変わらない。
	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・受注量や、売上等は3か月前と比べてもほぼ同じであるが、企業側からはよりコストダウンを求められている。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・年度末で例年ならばチラシの量が一番多い月であるが、4%減少している。
	会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・ガソリンが急激に高くなって、相当影響が出るかと思っただが、顧問先からは特にそういった話は出ていない。新年度を迎えるにあたって仕事も様子見の気配である。
	その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・問い合わせ等は増えてきても、実際の受注にはなかなか結び付いてこないが、動き自体は出てきている。
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	競争相手の様子	・現在はライバル社の仕事量もますますで、取引先も変わらず繁忙が続いている。このまま円安が定着すれば景気は上向くが、アメリカの財政赤字が改善されていないため、ある程度落ち着いたところで円高に向かう。
やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工作機械関連を始め設備関係も軒並み停滞、減少傾向にある。ただし部分的にハイブリッド自動車や電気自動車の部品関係は好調を維持している。
	輸送業（経営者）	それ以外	・軽油の高騰で利益が圧迫されているが、燃油サーチャージなどでの価格改定が認められない。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車産業の子会社の部品製造業が4月から比較的暇になるという情報を聞いている。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・金融機関の決算期のため回収及び案件が停止されている。
	不動産業（開発担当）	受注価格や販売価格の動き	・工事費が上昇基調にあるため、いずれは販売価格へ転嫁されることになり、販売への影響が懸念される。
	行政書士	受注量や販売量の動き	・荷動きに格差がある。
	公認会計士	それ以外	・会計事務所の取引先の業績が悪化している。
悪くなっている	経営コンサルタント	取引先の様子	・一般住宅の売上が芳しくなく、地価は引き続き下落傾向にある。消費税増税の駆け込み需要は見込めるが、引き続き景気は明るくない。
	鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年は東日本大震災の影響で3月以降の受注が前年同月比でも3割以上減少したが、今年も前年並みの受注量がやっとの状況にとどまっている。
雇用関連	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・客の研究開発ニーズは総じて好調なため、技術者派遣求人も増えている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・正社員採用の求人が増えている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年の反動か送別会が例年以上に入っており、学校関係の謝恩会も例年並みで、求人数も増えている。

	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・有効求人倍率の回復具合が良くなっている。
	人材派遣会社 (営業担当)	それ以外	・日経平均株価が1万円台を回復している。
	アウトソーシング企業 (エリア担当)	雇用形態の様子	・自動車製造業において増産体制が続いており、雇用も増員体制で上向きになっている。
	職業安定所(所長)	求人数の動き	・3、4次下請で自動車部品を製造している事業所などは、取引先からの生産受注が増加し残業で対応できず、新規に求人を募集する事業所が増えている。また、介護関係では、新たに進出する事業者と既存の事業者で施設拡張により求人を行う事業者など全体的に新規求人は多くなっている。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規、有効求人人数としては、前年同月比での増加傾向が続いており、上向きの方向といえる。ただし、内訳をみるとパート求人の増加が著しく、また新規求人に対する充足率は横ばいか又は低下傾向にある。賃金を上げられないなど、労働条件的に厳しい求人が増加している部分もあるのではないかと。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が一般、パート共に前年同月比で増加幅が拡大している。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人倍率が1倍を上回る月が続いている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数の増加傾向は依然として継続している。
	民間職業紹介機関(支社長)	求人数の動き	・自動車業界を中心に来期の採用計画が増加傾向にある。
変わらない	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・名古屋地方では意外に良くなっているが、当地域では派遣募集しても人が来ないし景気の悪い状態が続いている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は高い水準で安定しているが、非正規の求人も多く、景気が回復しているとはなかなかいえない。
	民間職業紹介機関(営業担当)	周辺企業の様子	・求人を出す企業数、求人数はほとんど変化しておらず、内容的にも発注する背景は通常求人である。繁忙期や繁忙予測を踏まえた場合は複数オーダーになる傾向があるが、その傾向も見えない。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (支店長)	雇用形態の様子	・各労働局から、派遣社員の従業務に関する適正化が再度厳しく実施されている。適正化に伴い自由化業務として契約を取り直す際に、起算日を過去にさかのぼるケースが続発しており、派遣先における直接雇用化が増加している。
	職業安定所(次長)	周辺企業の様子	・新規求人数は引き続き好調を維持している。しかし、管内大手工場からは500名を超える雇用調整が4月末で実施され、管内の景況に与える影響は大きいと、やや悪化している。
悪くなっている	-	-	-